第 II 巻

最新版 (初版２刷 (2002 年 10 月刊行予定)) に対する正誤表：

☆ p.83, 最下行　　最後の dy を dx にする

☆ p.85, 下から６行目　　体積はほぼ　$\Longrightarrow$　面積はほぼ

初版初刷 $\Longrightarrow$ ２刷の差分：

☆ p.151, 15 行目　　$\sim C\sqrt{2\pi}$　$\Longrightarrow$　$\sim C\sqrt{2}$

☆ p.151, 17 行目　　$1\sim$　$\Longrightarrow$　$1=$

☆ p.155, 6 行目　　補題９の記述を以下のように改める：
$u, v, \cdots, w, t$ が x の代数関数で t が定数でないならば, t は $\log u$, $\log v$,..., $\log w$ の $\boldsymbol{C}$ 上の線形結合では表せない.

☆ p.157, 9 行目　　“この両辺を”の前に“ここで log の項が一つでも存在すれば”を追加.

☆ p.157, 13 行目の最後に以下を追加.
“最後に $\int e^{-x^2}dx = t(x, e^{-x^2})$ が不可能なことは別に確かめることができます. 特に t が多項式のときは係数比較で初等的に示せ, 一般の場合もそれに帰着できます. $\int xe^{-x^2}dx$ の場合はこの段階で解が存在することも分かります.”

☆ p.203, 下から 3 行目　　偏微分記号の分子の $\partial^2 u$　$\Longrightarrow$　∂u　(二箇所)